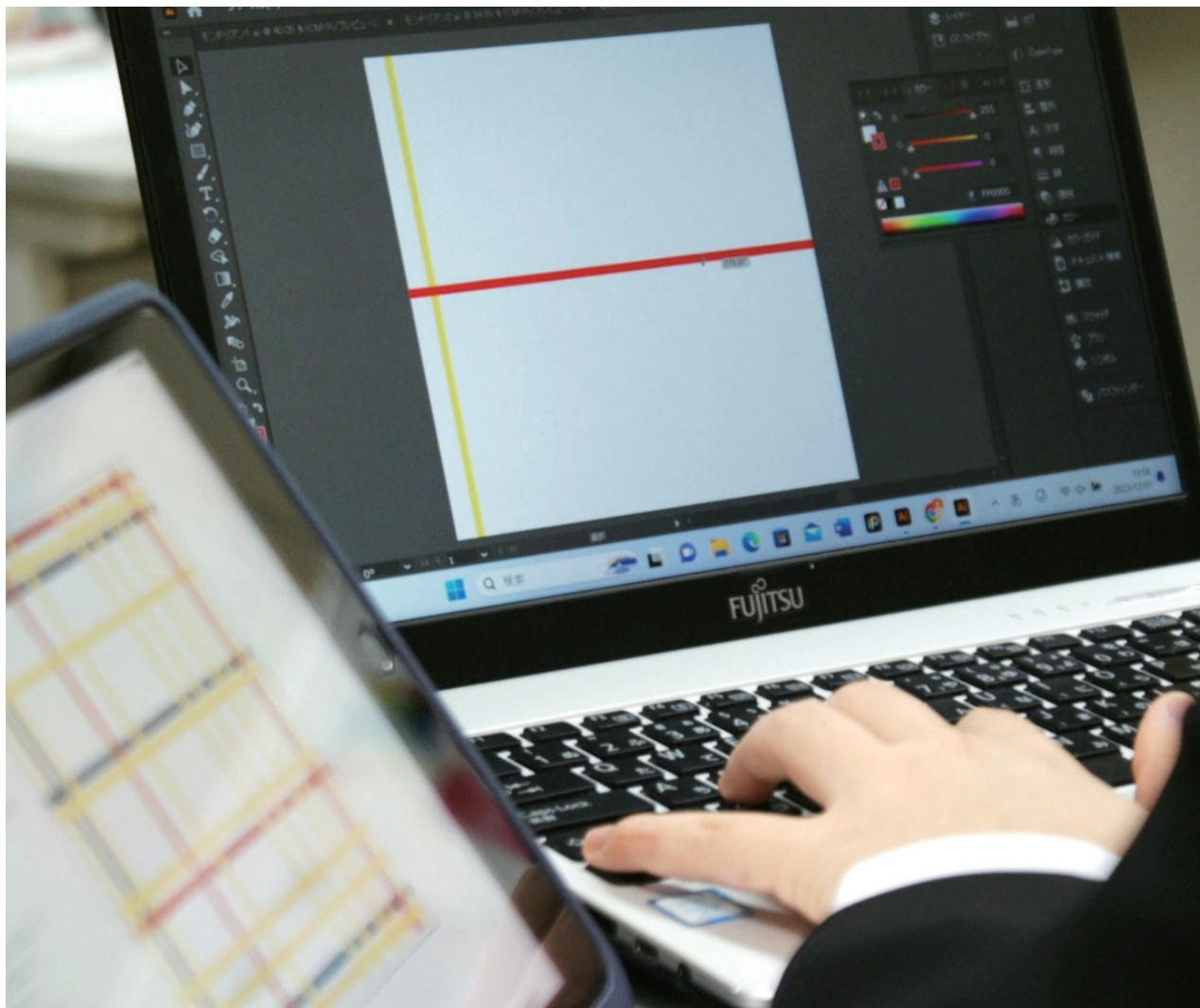


IDDNewsletter.....1

January
2024



特集

科目「色彩構成」から

専攻科1年生の科目に「色彩構成」があります。「色彩構成」では、色の基本的な仕組みと配色方法を習得させるとともに、色と形で表現する演習や制作を通して、学びを深め、基礎的な能力と態度を育てます。題材「平面構成」では、タブレット端末を活用したデジタル絵画の手法も取り入れた実技も行っています。今回は色彩構成で制作した作品や授業の様子について御紹介いたします。

科目「色彩構成」から

専攻科1年生の科目に「色彩構成」があります。「色彩構成」では、色の基本的な仕組みと配色方法を習得させるとともに、色と形で表現する演習や制作を通して、学びを深め、基礎的な能力と態度を育てます。題材「平面構成」では、タブレット端末を活用したデジタル絵画の手法も取り入れた実技も行っています。今回は色彩構成で制作した作品や授業の様子について御紹介いたします。

「ピート・モンドリアン」という名前について、美術に興味や知識をお持ちの方なら、すぐにその画家の作品イメージが思い浮かぶのではないのでしょうか。モンドリアンはいわゆる近代抽象絵画の代表的な画家であり、水平・垂直の直線と三原色からなる作風の「コンポジション」シリーズが有名です。それらの作品は、デザイン業界や現代美術に多大な影響を与えてきました。その幾何学的に単純化された画面構成にいたるまでには、多くの紆余曲折と試行錯誤があったことが彼の作品の変遷から読み取ることができます。

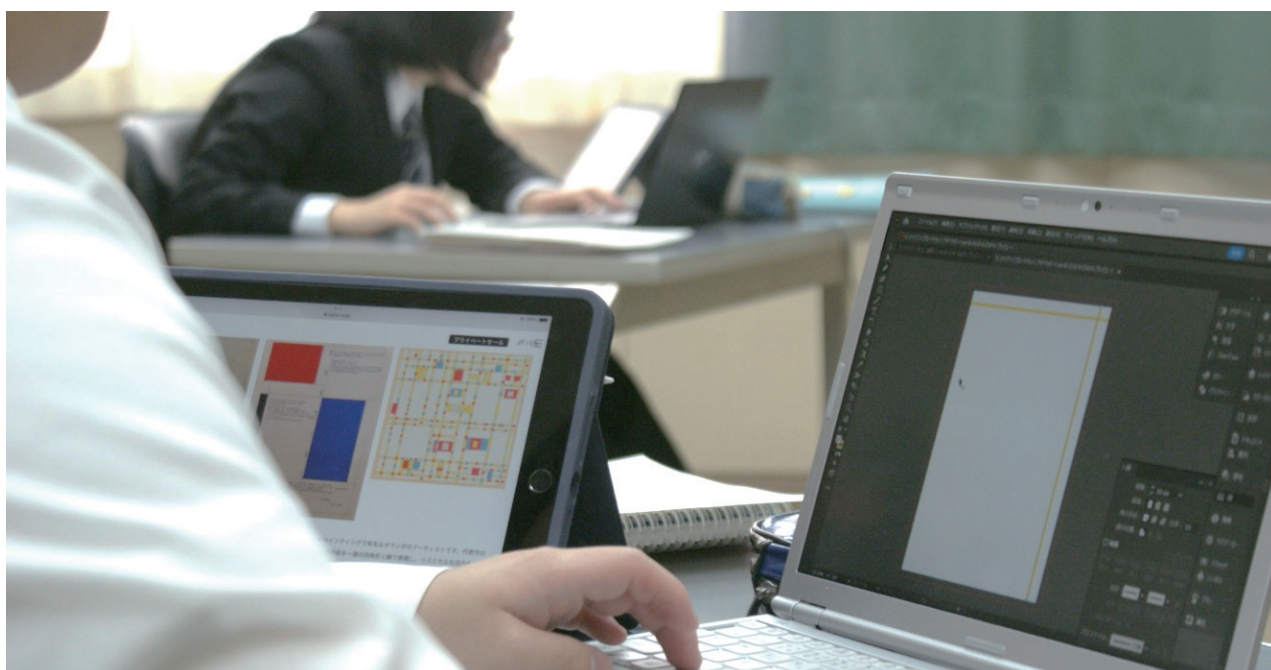
ここでモンドリアンについて触れたのは、科目「色彩構成」の授業で平面構成の題材としてその作品を採り上げているからです。平面構成は、様々なモチーフや題材をテーマに形やバランスを見ながら色彩を組み合わせ、一つの画面を構成することです。美術大学のデザイン学科の入試問題に使われることが多い、課題の一つであります。紙に直接下書きをし、ポスターカラー等の絵具で着色していく方法が一般的ではありますが、授業ではその他にも、タブレット端末やPCの描画用アプリケーションを活用した制作も

行っています。

モンドリアンを題材にした理由の一つは、コンポジションにおける画面構成が、PCやタブレット端末を活用したデジタル絵画による平面構成において相性がよく、制作手順が明確で、有効な題材であり手本であると考えからです。

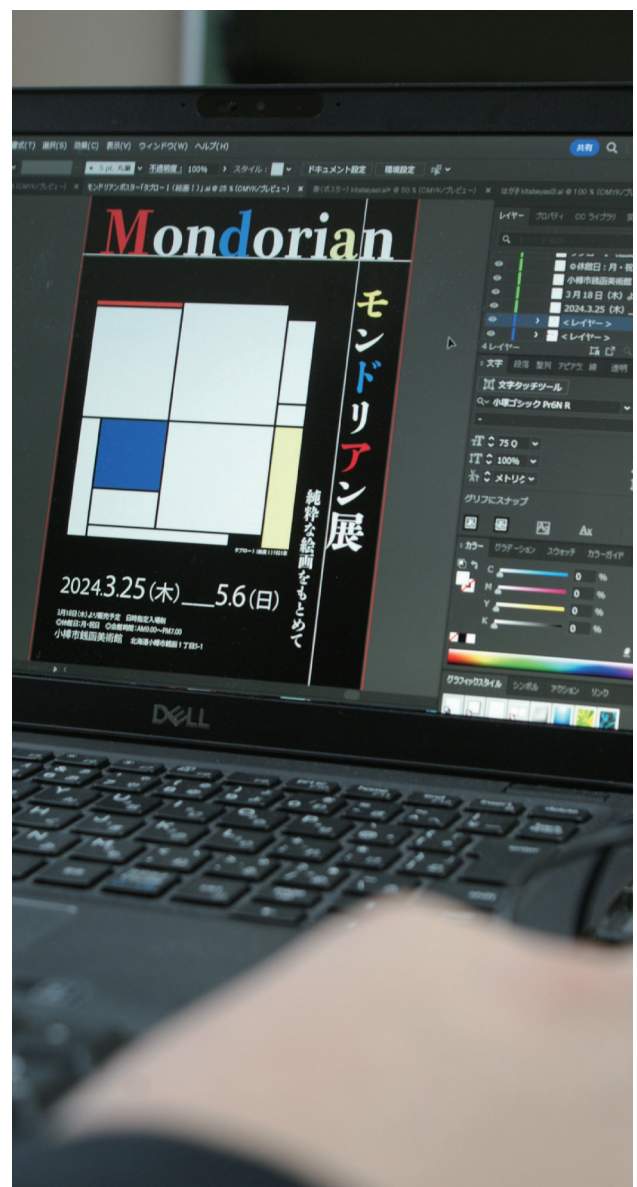
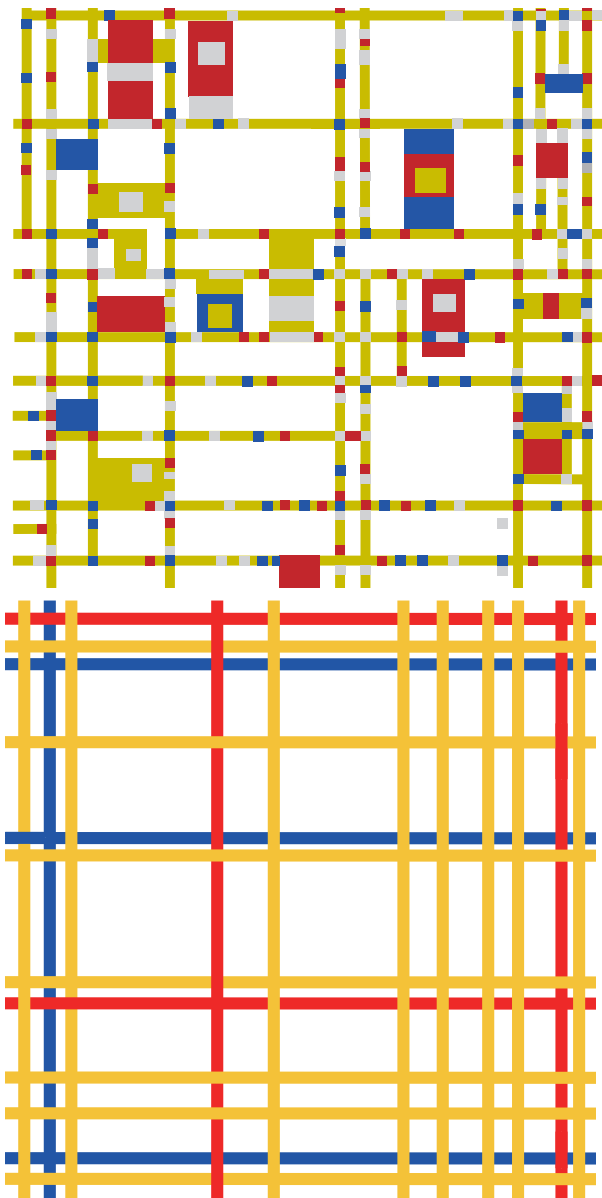
デジタル絵画の表現については、学科だより6月号で取り上げ、その特性やメリット・デメリットといった視点から、油彩画やアクリル絵具による絵画など、いわゆるアナログ絵画と比較いたしました。モンドリアンの作品については、絵具の重ね具合や質感といったマチエール等のアナログ絵画の特性を持たない、むしろそれらを排除したようにも見える作品です。グリッドと三原色を基調とした厳格でフラットな画面構成は、デジタル絵画による表現の特性と非常に親和性が高いと言えます。

二つ目の理由はモンドリアンのような美術史の残る優れた作品を模倣することで、線描や形、色彩等の画面構成の一つ一つが、学生にとって学ぶべき点が多いこと、今後の自身の作品制作を行う上でも参考になるためです。



使用する描画用アプリケーションは、AdobeIllustratorや ibispaint です。どちらもこれまで授業の中で扱ったことがあり、基本的な知識や操作等の技能がある程度、身に付いてきた状態ではありますが、制作中に分からない部分は各自、調べながら進めました。モチーフとなる作品により、手順や操作量等が異なりますが、絵具を用いた描画による平面構成と比べると、想定通り、準備等も含めてかなりの短時間で制作することができました。直線を描くための定規、塗りつぶしツールなど、機能の基本的な使い方を理解し、操作に慣れてくることで、瞬時に色や配置を変えるなど、直感的に扱えるようになっていき、二つ目の作品はさらに短時間で制作できるようになっていました。

また今回は作品の模写だけではなく、その模写の作品を使用したモンドリアンの架空の作品展のポスター制作を発展的な演習として行いました。基本となるレイアウトの手順やポイントは授業の中でも扱っていますが、まずは実際の作品展のポスターのレイアウトを調べ、模倣することから始めています。インターネットを通じて様々な展覧会のポスター作品を容易に閲覧できますが、なるべく見やすく基本的なことを押さえたレイアウトのものを見本としています。1年生については経験が浅く、改善していく必要がまだまだありますが、現段階での授業や演習の積み重ねが反映されてきたと思います。今後も継続して力を伸ばし、作品の質をさらに上げていくことを期待したいと思います。



Contents

2-3

特集

科目「色彩構成」から

専攻科1年生の科目に「色彩構成」があります。「色彩構成」では、色の基本的な仕組みと配色方法を習得させるとともに、色と形で表現する演習や制作を通して、学びを深め、基礎的な能力と態度を育てます。題材「平面構成」では、タブレット端末を活用したデジタル絵画の手法も取り入れた実技も行っています。今回は色彩構成で制作した作品や授業の様子について御紹介いたします。

Welcome to Information Design Department!!

令和6年度の入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科では、令和6年度入学生を募集しています。現在1次募集について受け付けています。(令和6年1月5日～同月19日)聴覚障害のある方で、高等学校や特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食となっております(注1)、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます(注2)。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科Webページ内の「入学者募集」をご覧ください。

専攻科情報デザイン科 Web ページ

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228

入学者募集について

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223

入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624



専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「準ずる教育」の教育課程です)
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTPやWebに係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Webであれば、HTML5とCSS3を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトやcenterタグは使いません！)
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスをを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

注1：1食330円(昼食)で、就学奨励費の対象となっています。注2：学年末・学年始休業日、夏季・冬季休業日は閉舎します。注3：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。注4：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注5：普通校には通常ない領域で、障がいそのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。注6：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「ろう者」と聴こえづらけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かれます。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

January 2024 1

IDDNewsletter

January 2024

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記Webページより電子メールでご連絡ください。